

福岡市文学館定例講座「ももちはま草紙」第88回

# 「朝鮮海峡」—記憶と文学

11月開催の文学講座は、映像作家の西嶋真司氏をお迎えします。テレビ局での在職中、ソウル特派員の経験を持つ西嶋真司氏をお迎えし、海峡を挟んだ二つの国、日本と韓国をめぐる様々な文学について伺います。

日時 2021年11月20日(土)

14時~15時30分(開場13時30分)

会場 福岡市総合図書館3階第1会議室

814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1

講師 にしじま しんじ 西嶋真司氏(映像作家)

定員 40名(要事前申し込み・抽選)

申し込み締切 11月10日(水曜日)

入場  
無料



応募事項 (1)氏名 (2)郵便番号 (3)住所 (4)電話番号 をもれなく記載し、ハガキ、FAX、メールのいずれかの方法でお申し込みください。(1人1口) 定員を超えた場合は抽選となり、当選者(受講決定者)のみ連絡します。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、プログラムが変更となる場合があります。

※ご参加の際は、必ずマスクの着用をお願いします。

※申込時にいただいた個人情報は、コロナウイルス感染症対策のため保健所などから要請があった場合、情報を開示することがあります。

＼お申し込み＼

**ハガキ** 〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1  
総合図書館文学・映像課 福岡市文学館担当

**FAX** 092-852-0609

**Email** bungakukan@city.fukuoka.lg.jp



にしじま しんじ

## 講師 西嶋真司氏(映像作家)

1981年RKB毎日放送入社。1991～1994年JNNソウル特派員。「コタ・バル～伝えられなかった戦争」(2011)、「嗣治からの手紙～画家は、なぜ戦争を描いたのか」(2014)、「十字架とショパン」(2017)など反戦や人権をテーマとするドキュメンタリー番組を製作。2016年映画「抗い～記録作家 林えいだい」(第23回平和協同ジャーナリスト基金賞大賞・第35回日本映画復興奨励賞・EIDF国際ドキュメンタリー映画祭招待)監督。2018年映像制作会社「ドキュメント・アジア」設立。2021年映画「標的」(2021年度第64回日本ジャーナリスト会議賞受賞・釜山国際映画祭正式招待)監督。

## 講師からのメッセージ

朝鮮海峡を挟む二つの民族の間には、戦争中の朝鮮人強制労働など不幸な歴史が横たわる。その歴史は九州を拠点に活動する作家や文化人によって文学という形で伝えられてきた。記録者たちの系譜をたどれば、一九六〇年代に文化誌「サークル村」を立ち上げた上野英信や森崎和江らをはじめ、それにつづく林えいだい、川原一之らの名前が挙がる。民族の苦悩を徹底的に追いつけた彼らの記録文学は、戦争や公害という過ちを再び繰り返さないための警鐘を鳴らす。

ノンフィクションの他にも、小説や俳句など多くの作家たちによって偽りのない民族の心情が吐露された。そこに綴られた言葉や文字の一つひとつは、映像では表現できないほど深く悲しい。二つの民族が理解を深めるためには、まずお互いを知ることから始めなければならない。その過去と未来をつなぐ場所に、文学はある。